

ECM新標準の策定と展開

E C M 委 員 会

目次

1. ECM委員会の活動経緯
2. 利用拡大に向けた新標準
3. 技術情報交換の支援ツール
4. 環境情報交換の支援ツール
5. ECMが目指すBtoBデータ交換
6. 今後の課題

目次

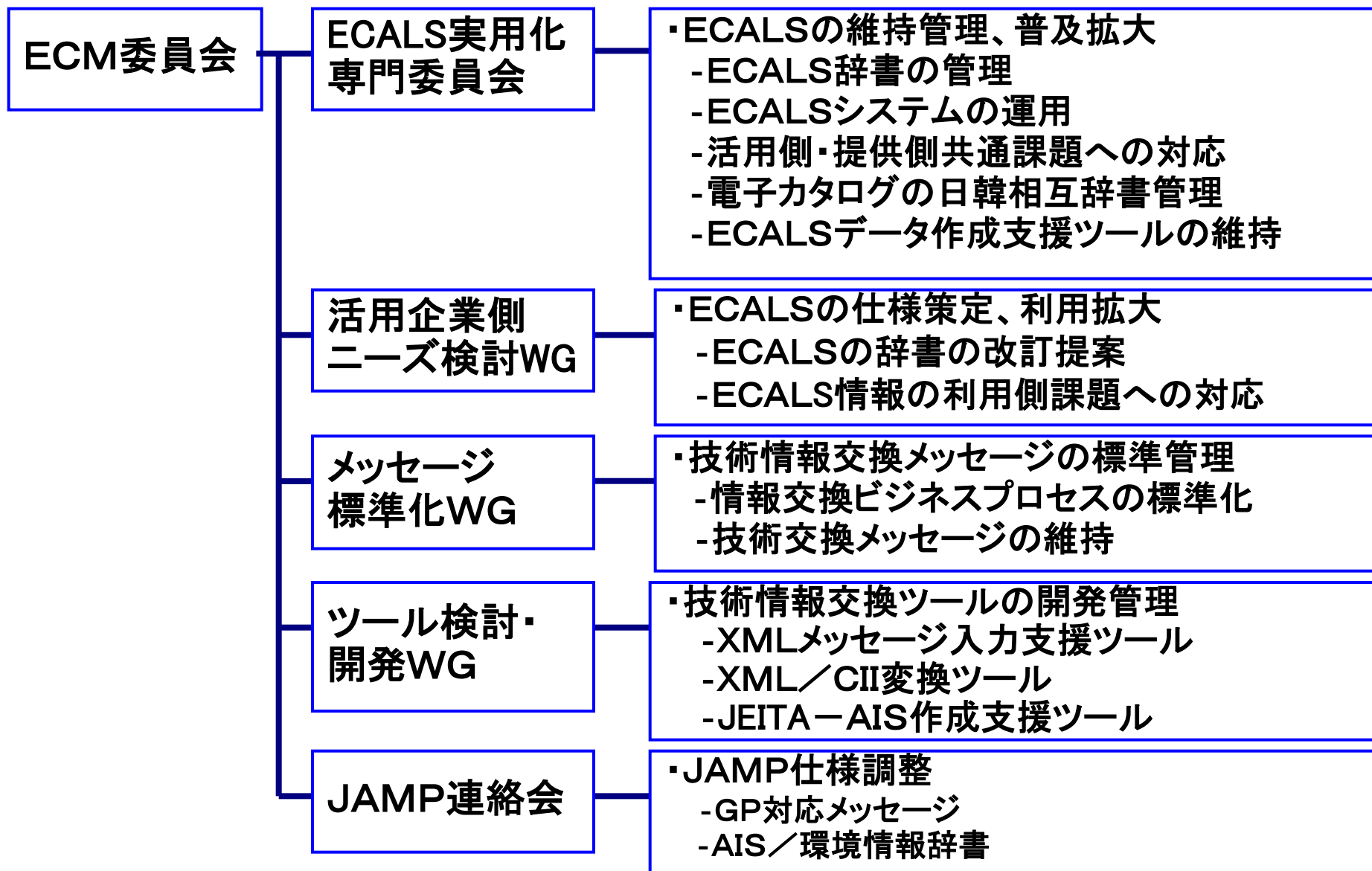
1. ECM委員会の活動経緯

1-1 ECM委員会の体制とテーマ

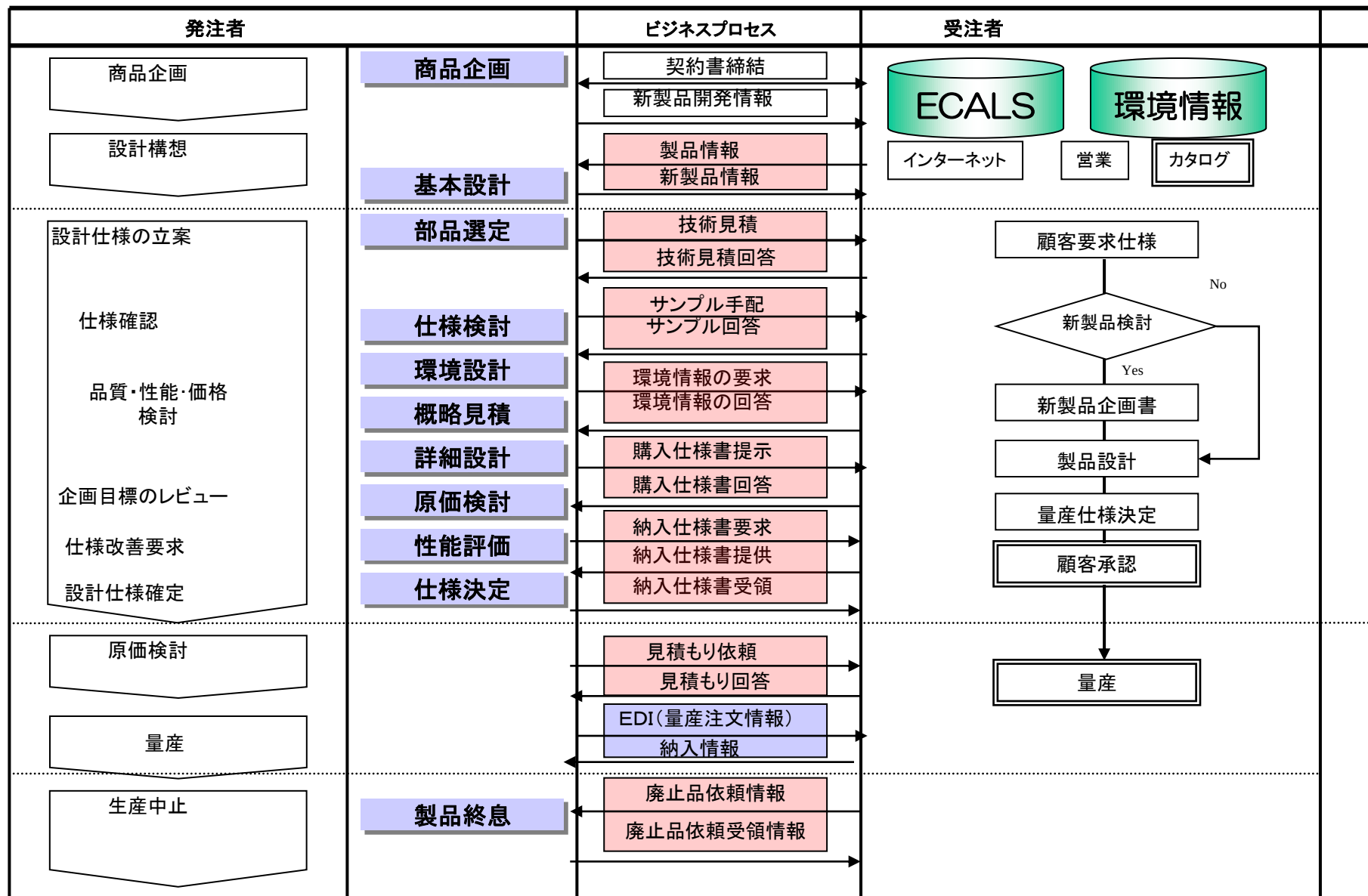
1-2 標準化の範囲

1-3 ECM標準化の取組み経緯

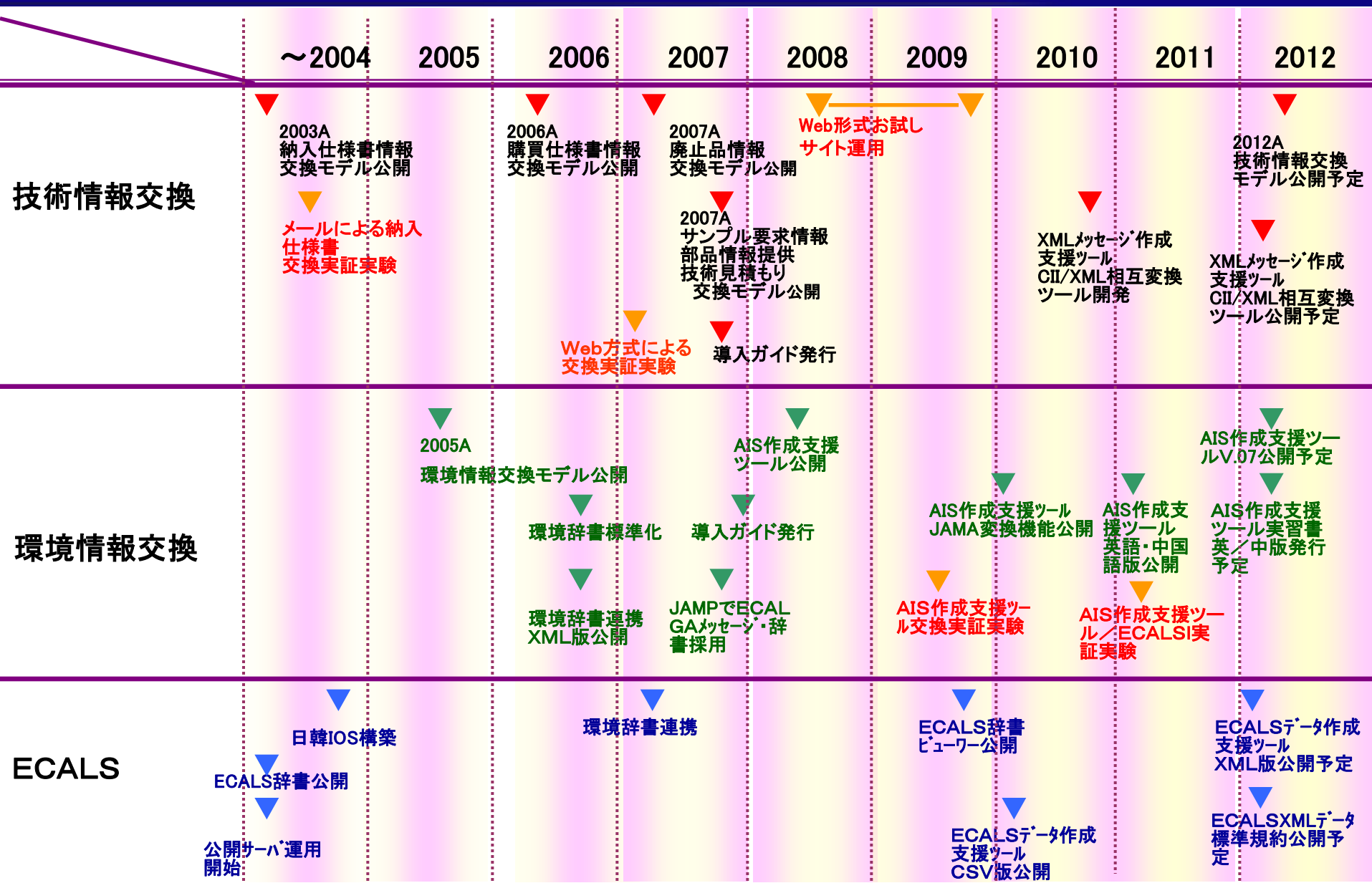
1-1 ECM委員会の体制とテーマ



1-2 標準化の範囲



1-3 ECM標準化の取組み経緯



目次

2. 利用拡大に向けた新標準

2-1 実証実験からの課題・要望事項

2-2 ECALS活用TFからの要求

2-3 標準化の基本方針

2-4 ECM系メッセージの構成

2-5 ビジネスドキュメントの構造変更

2-6 従来のモデル

2-7 新標準の技術情報交換モデル

2-1 実証実験からの課題・要望事項

関連ツールの 検証	XMLメッセージ作成 支援ツール	*必須項目が分かる様にして欲しい。 *Data TypeがENUM項目のプルダウン化等、入力作業を簡便化して欲しい。 *項目属性(文字、長さ、日付等)の画面表示が欲しい。 *ビジネスドキュメント標準情報の取扱いと適用の明確化。 *入力内容のチェック機能を付加したい。
	XML/CII変換ツール	*特殊な作業時にエラーが発生する。改善が必要。 *ユーザがファイル名を自由に設定したい。
	ECALSデータ作成 支援ツール	*データ形式(CSV/XML)の統一化、或いは相互変換機能を追加して欲しい。 *Data TypeがENUM項目のプルダウン化等、入力作業を簡便化して欲しい。
メ ッ セ ー ジ フォーマット	XMLフォーマット	*過不足項目が無いか、再度ビジネスドキュメントの見直しが必要。 *新しいBD(明細)の中で定義が明確でないものがある。
	CIIフォーマット	*「分割可変長モード」と「分割固定長モード」を依頼者側と 回答側で事前の 取り決めが必要。
	添付ファイル実装	*添付ファイル容量制限の上限の取り決め、及びガイドラインが必要。
全体プロセス	業務管理	*運用簡略化のため、ツール間の連携処理が出来ないか？

2-2 ECALS活用TFからの要求

活用側企業としては、ECALS情報のBtoBによる交換方式を望む。

ビジネスモデルに関する方向性

- ECALS情報を部品検索と標準化のため一次情報として活用することを想定している
- 業界標準としてのECALSコンテンツの維持/強化を希望
- ECALSの重要性を認識しており、辞書整備の拡大と継続を臨む
- 公開サーバは、業界標準のベースとして必要であり、継続した運用を望む

2-3 標準化の基本方針

【現状の課題】

- ・ebXML/ebMSサーバへの投資対効果が見えない
- ・プロセスを自動制御できるほど業務が標準化されていない
⇒BPSSだけでは対応できない(業務側にもプロセス管理が必要)
- ・データ種別が多いため処理が複雑で理解が難しい
- ・メッセージ項目が多く使い分けや処理が複雑になる
- ・処理が複雑なためコストと専門の要員の確保が困難



- ・ビジネスプロセスの管理にBPSSを使用しない。
- ・XML形式に加えてCII形式にも適用する。
- ・CII形式とXML形式のレイアウトを統一する。
- ・BDのレイアウトはシンプルな構造を目指す。
- ・投資を抑止するためデータ交換支援ツールを提供する。

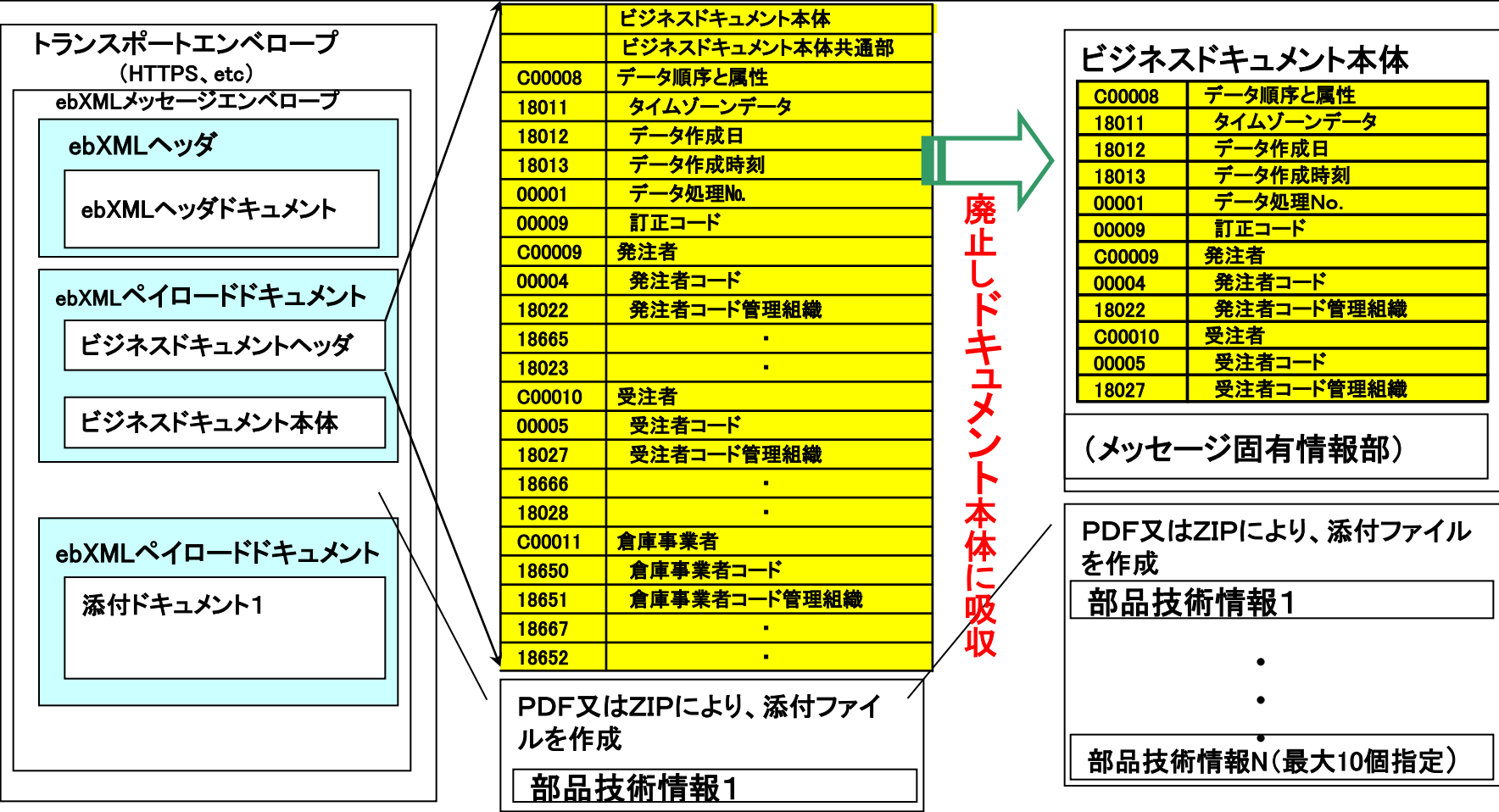
2-4 ECM系メッセージの構成

	現行の標準		新たなECM標準	
	EIAJ	ECALGAコラボレーションモデル	ECALGAーCIIモデル	ECALGAーXMLモデル
プロセス記述	ビジネスシナリオ	ebXML構造化 CBC-BC-BT-BA	ビジネスシナリオ	ビジネスシナリオ
メッセージの構造	マルチ構造 ・データ種別 ・データレコード	シングル構造 シングルデータ	シングル構造 シングルデータ	シングル構造 シングルデータ
実装規約	CIIシンタックス ルール	ECALGA (XML標準)	CIIシンタックス ルール	ECALGA (XML標準)
クラスの採用	クラス管理なし	クラス管理なし	クラスを導入し必要 項目のみ使用	クラスを導入し必要 項目のみ使用
送受信コントロール	アプリケーションレベルでビジネスシナリオをコントロール	BPSSでビジネスシナリオをコントロール	アプリケーションレベルでビジネスシナリオをコントロール	アプリケーションレベルでビジネスシナリオをコントロール
標準の変更	1Hで終了	新規開発は凍結	XMLモデルと共通に維持管理	CIIモデルと共通に維持管理

2-5 ビジネスドキュメントの構造変更

1) レイアウトの統合

BDのレイアウトをシンプルにするためにXML形式のデータ本体共通部を廃止して、メッセージ種別ごとに必要項目のみをデータレコードに定義することで、CII形式とXML形式のレイアウトを一本化する。



2-5 ビジネスドキュメントの構造変更

2) CII形式ビジネスドキュメント(技術情報依頼・通知情報)

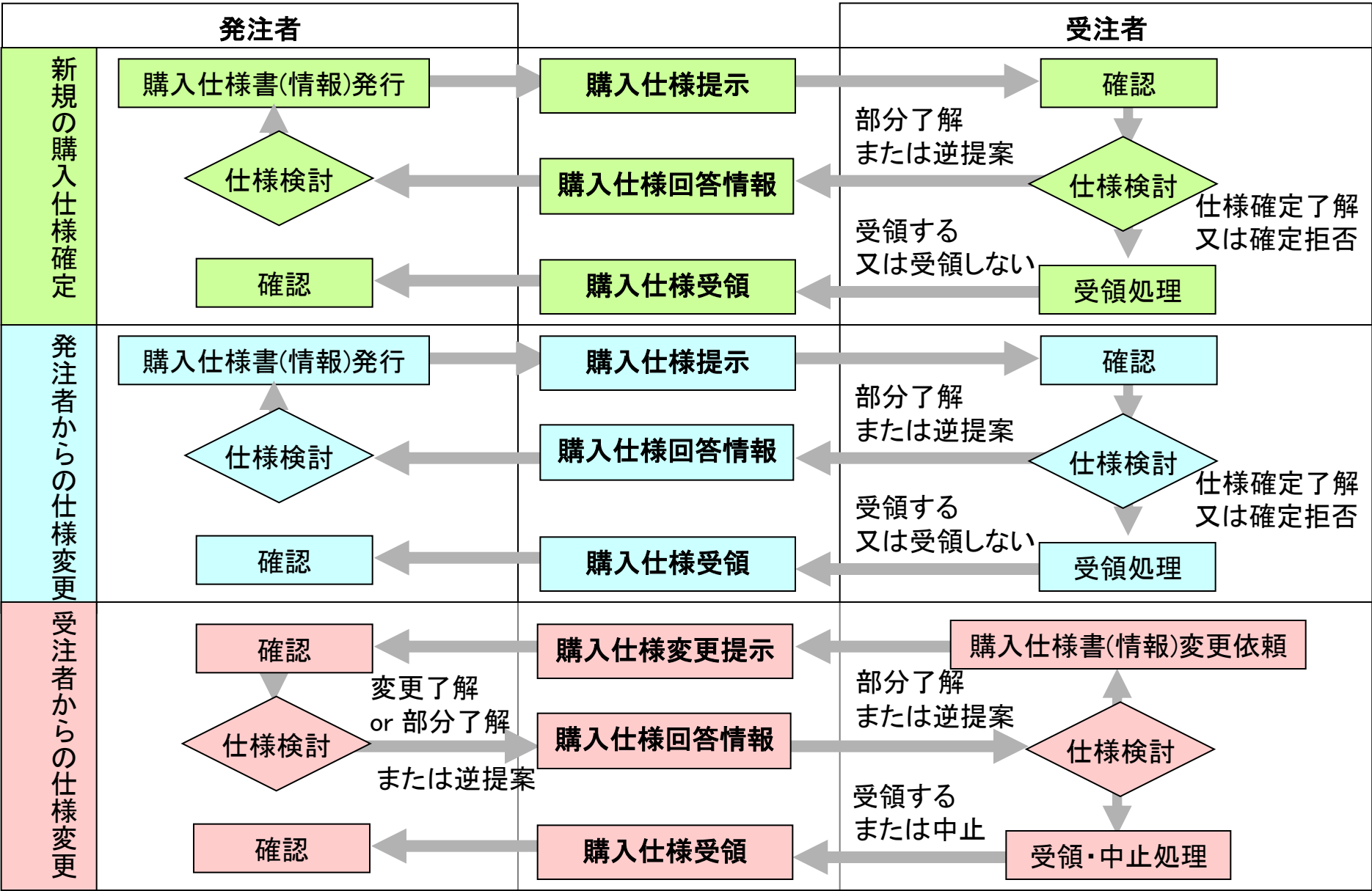
行番	項目No.	項目名	必須	キー	CD	項目定義	値の型	繰返数
1	00001	データ処理No.	●			受信者での受信データの処理順序を表す番号。 受信者は、受信データをこの番号の昇順に処理するため、送信者は採番方法について「II. 技術編 2. 4 (3) データ処理No.の編集基準」に従うこと。	9(5)	1
2	00002	情報区分コード	●		*	情報の種類を示すコード。(技術情報依頼・通知情報=0101)	X(4)	1
3	18012	データ作成日	●			データを作成した日付。	X(8)	1
4	18013	データ作成時刻	●			データを作成した時刻。	X(6)	1
5	00009	訂正コード	●		*	情報の新規・変更・取消を示すコード。	X(1)	1
6	00004	発注者コード	●	★	*	注文を行う企業(6桁)およびその工場・事業所・事業部門等(6桁)を表すコードで企業コードにより示す。	X(20)	1
7	18022	発注者コード管理組織	●	★	*	発注者コードを管理する団体を示すコード。	X(10)	1
8	00005	受注者コード	●	★	*	注文を受ける企業(6桁)およびその営業所・事業所・事業部門等(6桁)を表すコードで企業コードにより示す。	X(20)	1
9	18027	受注者コード管理組織	●	★	*	受注者コードを管理する団体を示すコード。	X(10)	1
10	20001	技術情報依頼・通知番号	●	★		技術情報依頼・通知者の管理番号。企業コード内で1年以内に重複しないユニークな番号を採番すること。	X(64)	1
11	20002	技術情報区分	●		*	交換する技術情報の区分。	X(2)	1
12	20003	依頼・通知区分	●		*	依頼か通知かの区分。	X(1)	1
13	18382	発注側担当者名				発注側の担当者名。	X(50)	0/1
14	20007	発注側担当者名(漢字)				発注側の担当者名。	K(100)	0/1
15	18157	発注側担当者役割名称				発注側担当者の役割・種別を表す名称種別を表す(開発、技術、購買、営業、品質管理等)。	X(40)	0/1
16	20008	発注側担当者役割名称(漢字)				発注側担当者の役割・種別を表す名称。	K(80)	0/1
17	18164	発注側担当者e-mailアドレス				発注側担当者のe-mailアドレス。	X(60)	0/1
18	18388	受注側担当者名				受注側の担当者名。	X(50)	0/1
						.		
						.		
						.		
41	18788	発注者品番				対象品について、発注者が定める対象品に個別のユニークな番号。	X(25)	0/1
42	18789	受注者品番				対象品について、受注者が定める対象品に個別のユニークな番号。	X(25)	0/1
43	20004	依頼・通知日	●			依頼・通知者の依頼日。	X(8)	1
44	18334	回答期限(依頼者)	●			依頼者が希望する提出に対する回答期限。	X(8)	1
45	20005	依頼・通知内容				依頼・通知者の依頼・通知内容。情報のVer.等を記述する。	X(127)	0/1
46	20006	依頼・通知内容(漢字)				依頼・通知者の依頼・通知内容。情報のVer.等を記述する。	K(254)	0/1
47	18478	添付ファイル有無区分	●		*	付帯情報のファイルの有無を表すコード。	X(1)	1
48	18479	添付ファイル名				付帯情報を含むファイルの名称。	X(60)	0-10

2-5 ビジネスドキュメントの構造変更

3) XML形式ビジネスドキュメント(技術情報依頼・通知情報)

行番	クラスNo.	項目No.	項目名	必須キー	CD	項目定義	値の型	出現回数
1	C00008		データ順序と属性	●		トランザクションデータ作成のタイミング、順序、新規・変更・取消の区別を示すクラス。		1
2		00001	データ処理No.	●		受信者での受信データの処理順序を表す番号。 受信者は、受信データをこの番号の昇順に処理するため、送信者は採番方法について「II. 技術編 2. 4 (3) データ処理No.の編集基準」に従うこと。	X(5)	1
3		00002	情報区分コード	●	*	情報の種類を示すコード。	X(4)	1
4		18012	データ作成日	●		データを作成した日付。	X(8)	1
5		18013	データ作成時刻	●		データを作成した時刻。	X(6)	1
6		00009	訂正コード	●	*	情報の新規・変更・取消を示すコード。	X(1)	1
7	C00009		発注者	●		注文を行う企業		1
8		00004	発注者コード	●	★	注文を行う企業 (6桁) およびその工場・事業所・事業部門等 (6桁) を表すコードで企業コードにより示す。	X(20)	1
9		18022	発注者コード管理組織	●	★	発注者コードを管理する団体を示すコード。	X(10)	1
10	C00010		受注者	●		注文を受ける企業		1
11		00005	受注者コード	●	★	注文を受ける企業 (6桁) およびその営業所・事業所・事業部門等 (6桁) を表すコードで企業コードにより示す。	X(20)	1
12		18027	受注者コード管理組織	●	★	受注者コードを管理する団体を示すコード。	X(10)	1
13	C01001		技術情報交換B/D情報	●		技術情報の交換を識別するための情報。		1
14		20001	技術情報依頼・通知番号	●	★	技術情報依頼・通知者の管理番号。企業コード内で1年以内に重複しないユニークな番号を採番すること。	X(64)	1
15	C01002		技術情報区分	●		交換する技術情報の区分。		1
16		20002	技術情報区分	●	*	交換する技術情報の区分。	X(2)	1
17	C01003		依頼・通知区分	●		交換する技術情報の依頼か通知かの区分。		1
18		20003	依頼・通知区分	●	*	依頼か通知かの区分。	X(1)	1
						・		
						・		
						・		
51	C00340		部品詳細情報			部品の詳細情報クラス。		0/1
52		18788	発注者品番			対象品について、発注者が定める対象品に個別のユニークな番号。	X(25)	0/1
53		18789	受注者品番			対象品について、受注者が定める対象品に個別のユニークな番号。	X(25)	0/1
54	C01004		技術情報依頼・通知内容	●		依頼・通知する技術情報の内容。		1
55		20004	依頼・通知日	●		依頼・通知者の依頼日。	X(8)	1
56		18834	回答期限 (依頼者)	●		依頼者が希望する提出に対する回答期限。	X(8)	1
57		20005	依頼・通知内容			依頼・通知者の依頼・通知内容。情報のVer.等を記述する。	X(127)	0/1
58		20006	依頼・通知内容 (漢字)			依頼・通知者の依頼・通知内容。情報のVer.等を記述する。	K(254)	0/1
59	C00293		添付ファイル	●		証明書および付帯情報を含むファイル群。		1
60		18478	添付ファイル有無区分	●	*	付帯情報のファイルの有無を表すコード。	X(1)	1
61		18479	添付ファイル名			付帯情報を含むファイルの名称。	X(60)	0-10

2-6 従来のモデル(購入仕様書交換の概要フロー)

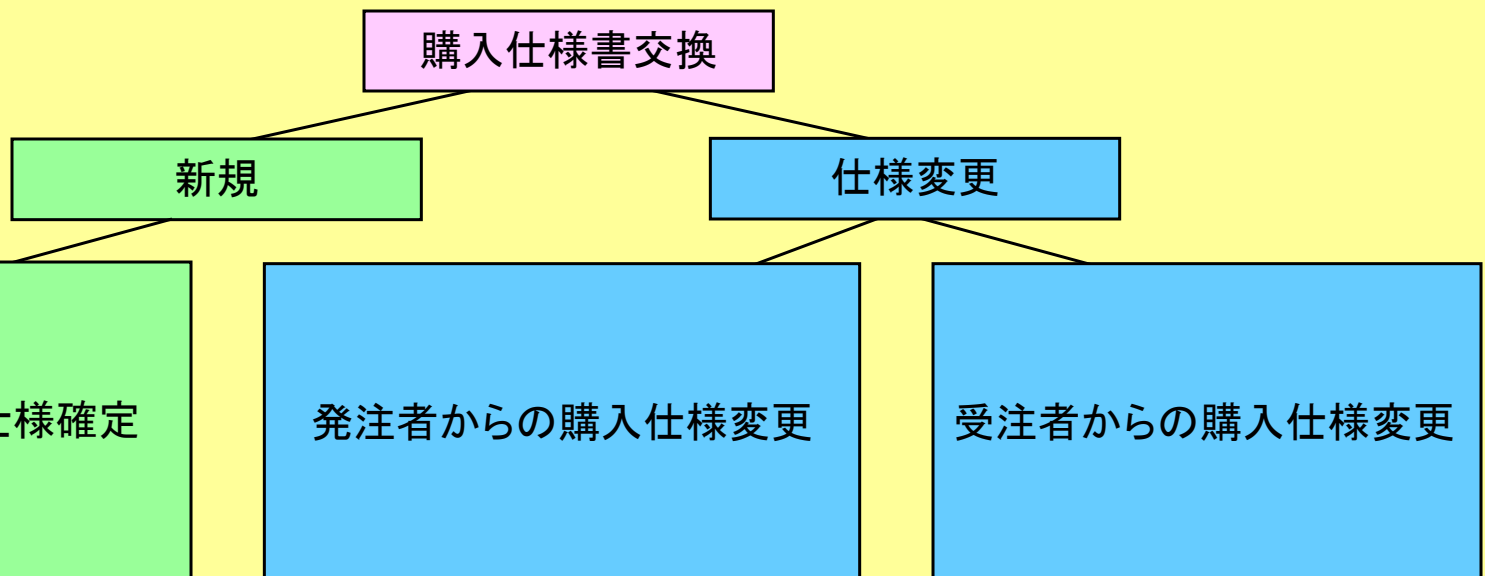


2-6 従来のモデル(購入仕様書交換)

購入仕様書交換モデルの構成内容

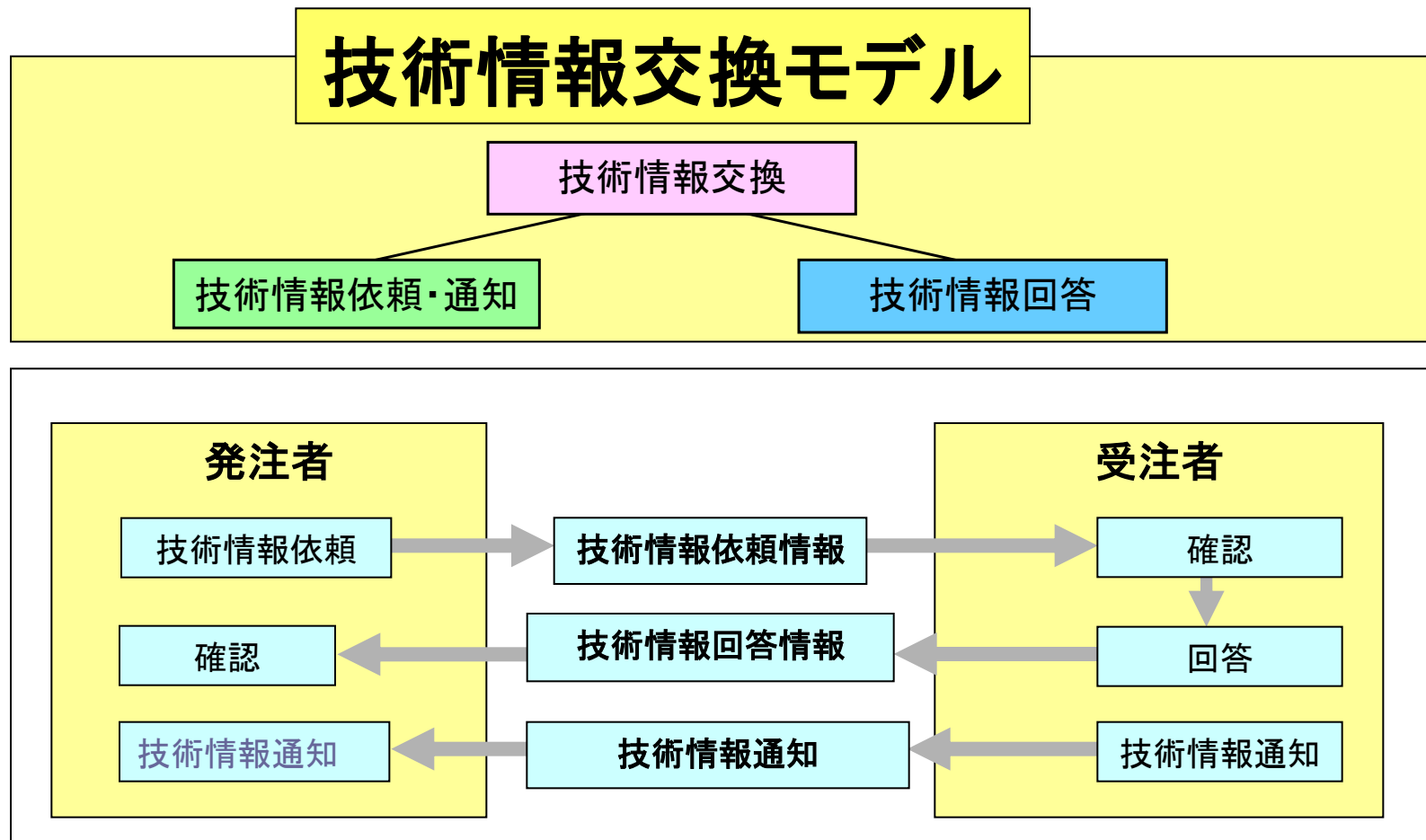
購入仕様書交換形態による3種類のビジネスコラボレーションにより構成される。

購入仕様書交換モデル



2-7 新標準の技術情報交換モデル

BDの組み合わせで、交換される論理的なビジネスプロセスであり、BPSSを使用しない。 同一のメッセージで複数の種類の技術情報交換を行い、情報種はメッセージ項目の技術情報区分で指定し切分けを行なう。



一 目 次

3. 技術情報交換の支援ツール

3-1 各支援ツールの位置づけ

3-2 課題・要望事項への対応

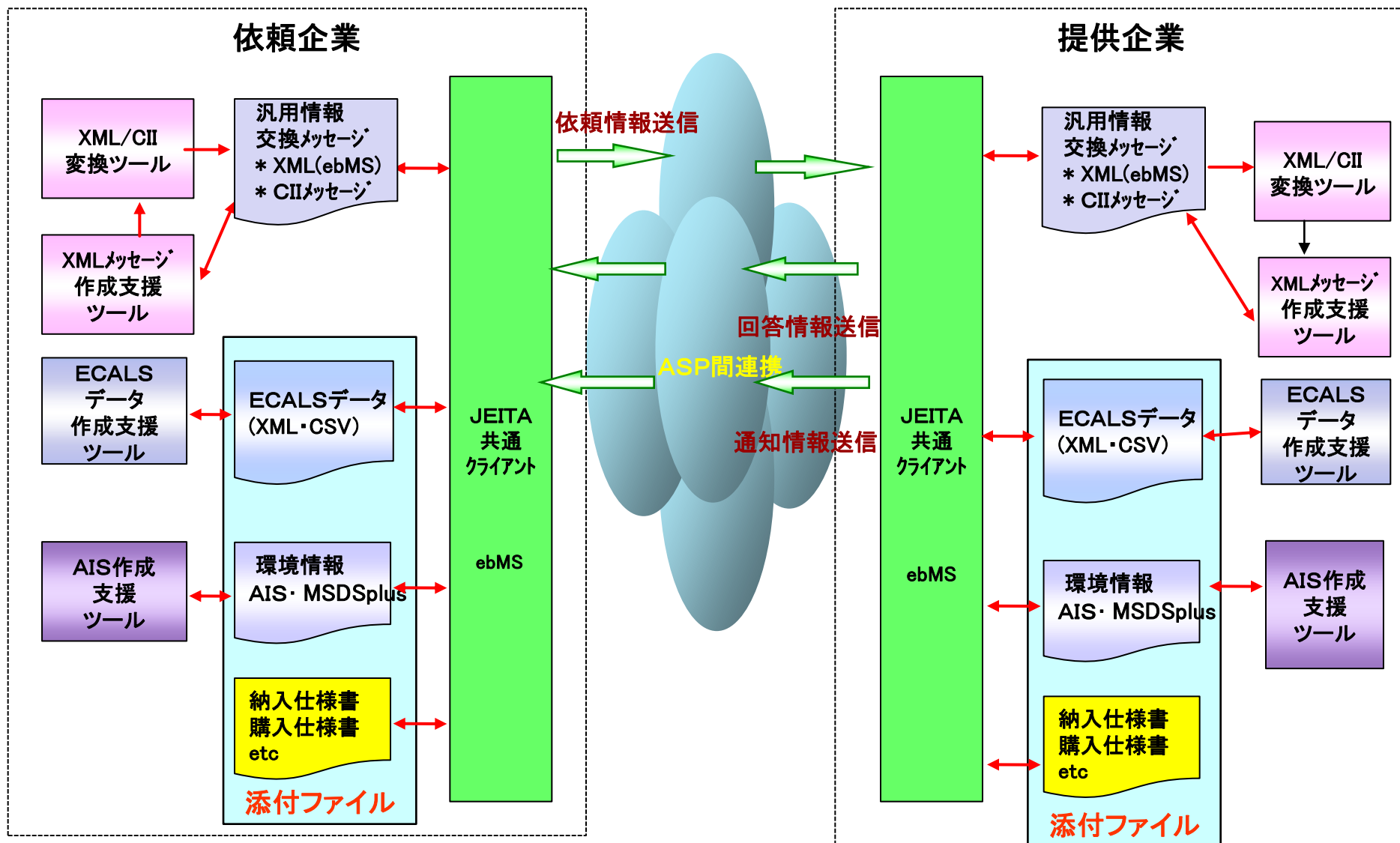
3-3 XMLメッセージ作成支援ツール

3-4 XML／CII変換ツール

3-5 ECALSデータ作成支援ツール

3-6 ツール動作環境

3-1 各支援ツールの位置付け



3-2 課題・要望事項への対応

ドキュメント ビジネス	レイアウト		依頼/通知・回答情報の2つのビジネスドキュメントに分離する。 過不足項目が無いか、再度ビジネスドキュメントの項目を見直す。 不要な項目の見直し(データ部共通項目について見直しを要請する。) 定義が不明確な項目があるので定義を明確にする。 分割固定長モードと通常可変長モードに対応する。
	共通事項		ビジネスドキュメントの種別追加に対応する。 ビジネスドキュメントのフォーマット変更に対応する。 複数添付ファイルに対応する。
ツールへの要望	XMLメッセージ作成支援ツール	XML/CIIで許容される文字属性が違う。(XML⇄CII変換でのエラーに対応する)	必須項目が不明確なため、入力画面にガイドを表示する。 項目属性(文字、長さ、日付等)を画面に表示する。 入力内容のチェック機能の強化 必須項目チェック 項目属性チェック 文字属性チェック 1バイト文字/2バイト文字の属性チェック 数字属性チェック 日付属性チェック(数値チェックのみ) 桁数チェック
		入力画面のスクロールが操作しづらい(入力項目が多いため)	ビジネスドキュメント本体共通部を廃止。 不要な項目の見直し(取引標準・情報技術専門委員会と検討)
		入力画面に必須入力、日付形式、データ属性、桁数が解るガイダンスがほしい。	インフォパスの入力画面に必須項目及び項目属性・桁数のガイダンスを表示する。
		コード値(ENUM項目)の入力の簡便化	コード項目(ENUM値)をプルダウンして、リストから選択できるように変更する。

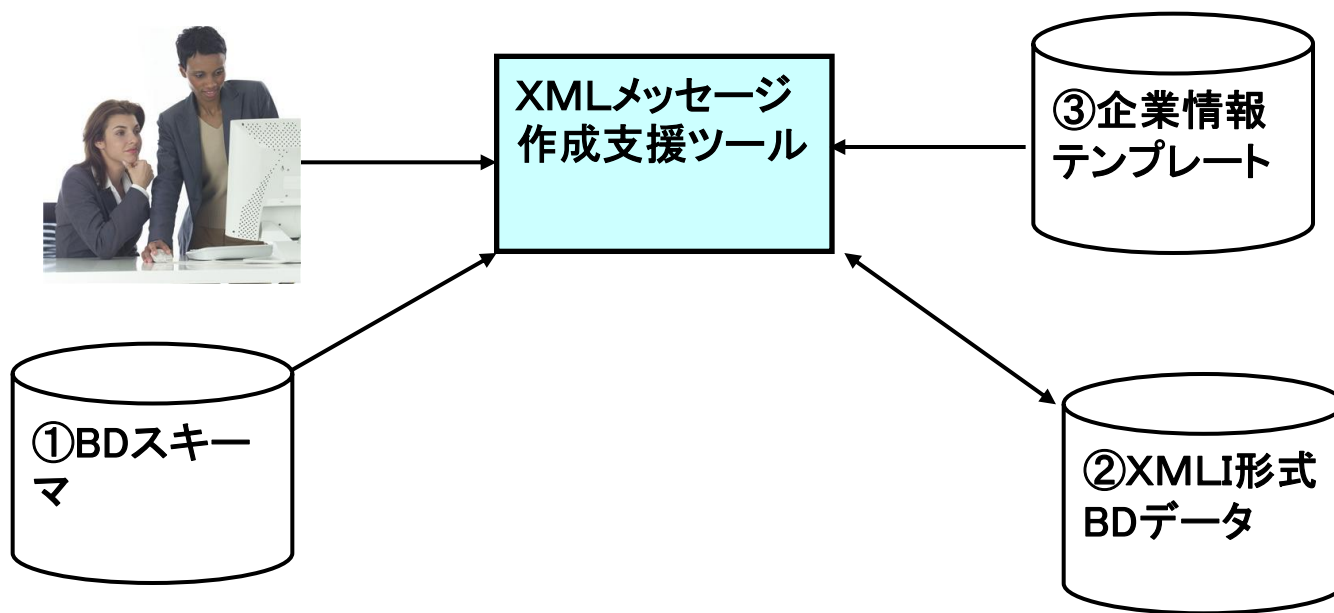
3-2 課題・要望事項への対応

ツールへの要望	XMLメッセージ作成支援ツール	依頼BDから回答BDを自動で置き換える機能	依頼情報のビジネスドキュメントから回答情報のビジネスドキュメントを生成する機能の追加。ビジネスドキュメントを画面上で入力、編集する。
		ファイルの読み込み/保管先で指定したフォルダーが次回も引き継げるようにしてほしい。	WINDOWS(.NETフレームワーク)のセキュリティ制限より対照となるフォルダーが制限されており、改修が非常に困難なため今回対応を断念。
		ひな形データを読み込み、修正できるようにしてほしい。	取引先会社ごとに雛形データを前もって作成し、それをインポートして画面上で修正ができるように改修する。
	XML/CII変換ツール		複数添付ファイルの繰り返し対応する。 ログ機能を強化する。
	ECALSデータ作成支援ツール		ECALSの情報交換に向けたXML形式の入出力機能を付加。 データチェックと辞書更新対応機能によりデータの品質と鮮度向上を支援。
規約	添付ファイル実装		添付ファイル容量制限の上限の取り決め、及びガイドラインを制定する。
全体プロセス	業務管理		運用簡略化のため、ツール間の連携処理を検討する。

3-3 XMLメッセージ作成支援ツール

1) 機能概要

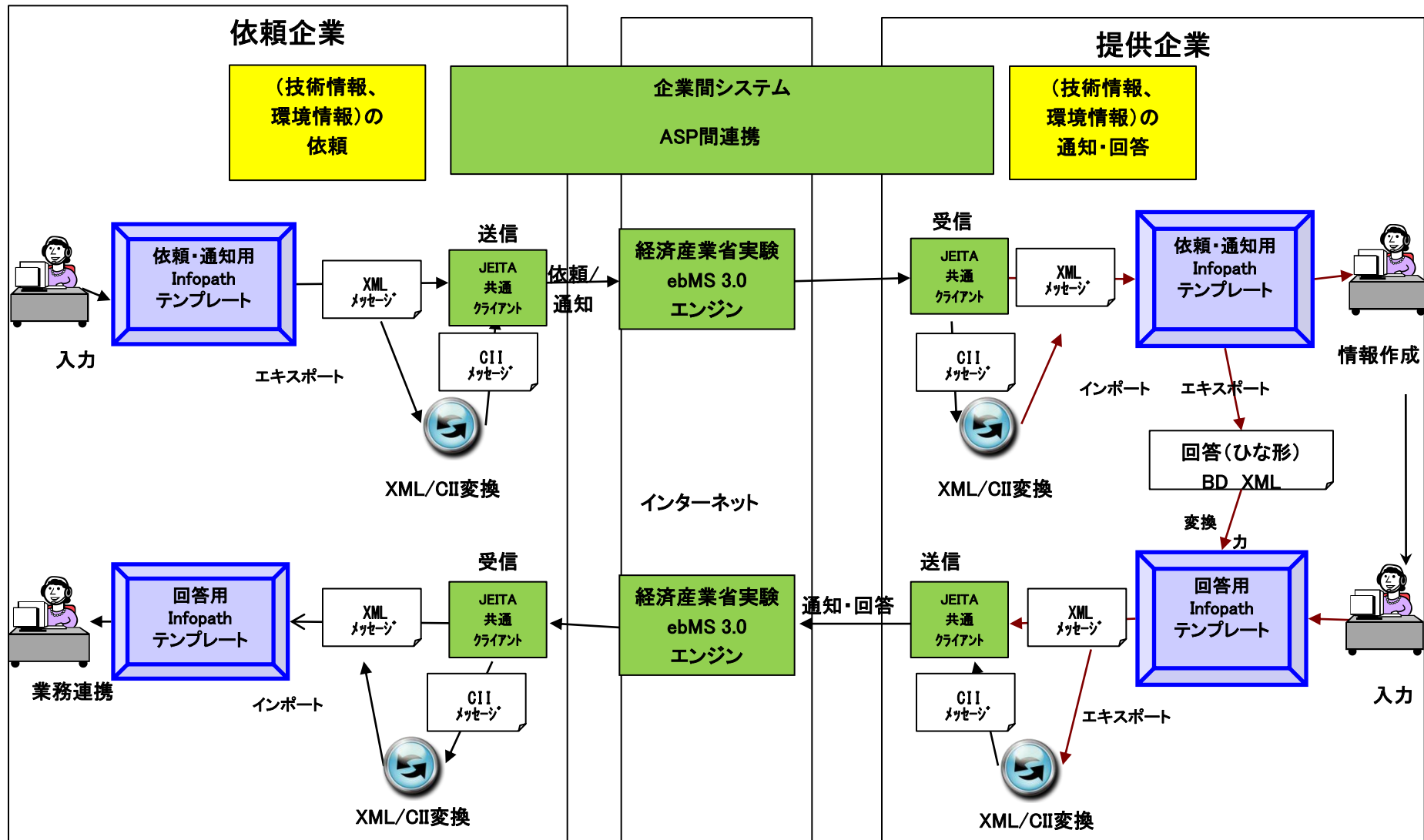
Microsoft Office「InfoPath」をベースに利用し、ECALGA標準のBDのスキーマを解析して、入力用のテンプレート画面を展開し、簡便なデータ入力が可能で、XML形式のメッセージデータを作成して出力する。



- ①BDスキーマ : XML形式BDのレイアウト定義スキーマファイル
- ②XML形式BD : XML形式のBDファイル
- ③企業情報テンプレート : 企業情報の企業テンプレート情報

3-3 XMLメッセージ作成支援ツール

2) XMLメッセージ作成支援ツール動作概要



3-3 XMLメッセージ作成支援ツール

3) 依頼メッセージから回答メッセージを作成

BD-0830 依頼・通知フォーマット

開く

保存

保存(C形式)

回答

BDデータタイムゾーン

JUST

X(10)

BDデータ作成日

20120207

X(8)

BDデータ作成時刻

1430

X(6)

送信者コード

SENDER100000

X(20)

送信者コード管理組織

【(財)日本情報処理開発協会 電子商取引推進センター

送信者所属プロバイダコード

PROVIDER00001

X(20)

送信者センターコード

CENTER000001

X(20)

受信者コード

RECEIVER200000

X(20)

受信者コード管理組織

【(財)日本情報処理開発協会 電子商取引推進センター

受信者所属プロバイダコード

PROVIDER00002

X(20)

受信者センターコード

CENTER000002

X(20)

ビジネスドキュメント標準

JEITA

BD-0840 回答フォーマット

開く

保存

保存(C形式)

BDデータタイムゾーン

JUST

X(10)

BDデータ作成日

X(8)

BDデータ作成時刻

X(6)

送信者コード

RECEIVER200000

X(20)

送信者コード管理組織

【(財)日本情報処理開発協会 電子商取引推進センター

送信者所属プロバイダコード

PROVIDER00002

X(20)

送信者センターコード

CENTER000002

X(20)

受信者コード

SENDER100000

X(20)

受信者コード管理組織

【(財)日本情報処理開発協会 電子商取引推進センター

受信者所属プロバイダコード

PROVIDER00001

X(20)

受信者センターコード

CENTER000001

X(20)

mas=BD-0840-Ver2011A-Rev01

BD0840.xml

以下の対応を行なってXMLを作成します。

- 1)XMLのスキーマを通知→回答に変更
- 2)ヘッダー部の送信者項目4つと受信者項目4つを入れ替え
- 3)通知と回答で同じ定義項目の値を引継ぎ

クラスNo.	項目No.	項目名	値
C00002		送信者	
	18014	送信者コード	0001
	18015	送信者コード管理組織	購買
	18016	送信者所属プロバイダコード	XXXX01
	18017	送信者センタコード	YYYY01
C00003		受信者	
	18018	受信者コード	0002
	18019	受信者コード管理組織	技術
	18020	受信者所属プロバイダコード	AAAA91
	18021	受信者センタコード	BBBB66

クラスNo.	項目No.	項目名	値
C00002		送信者	
	18014	送信者コード	0002
	18015	送信者コード管理組織	技術
	18016	送信者所属プロバイダコード	AAAA91
	18017	送信者センタコード	BBBB66
C00003		受信者	
	18018	受信者コード	0001
	18019	受信者コード管理組織	購買
	18020	受信者所属プロバイダコード	XXXX01
	18021	受信者センタコード	YYYY01

3-3 XMLメッセージ作成支援ツール

4) 必須項目・項目属性ガイドの表示

BDデータ作成日

X(8)

*

必須項目を「*」で表示

データ処理No.

1
9(5)

⋮

発注側担当者名

YAMADA TAROU

発注側担当者名(漢字)

X(50)

山田 太郎

K(100)

属性(桁数)で表示

9 : 数字型

X : 1バイト文字(半角英数大小字、一部特殊記号)

K : 2バイト文字(漢字、全角文字)

3-3 XMLメッセージ作成支援ツール

5) 入力内容のチェック機能の付加(必須項目チェック)

保存

保存(CII形式)

ボタン押下時のチェック処理で属性Xの項目に対して

「全角文字不可」をチェックします。

The screenshot shows the Microsoft Office InfoPath interface. The form has several fields with labels and values:

Field Label	Value
発注側担当者名	やまだたろう
発注側担当者名(漢字)	山田 太郎
発注側担当者役割名称	Purchase
発注側担当者役割名称(漢字)	
発注側担当者 e-mailアドレス	
受注側担当者名	
受注側担当者名(漢字)	鈴木 一郎
受注側担当者役割名称	Sales
受注側担当者役割名称(漢字)	営業担当

An error message dialog box is displayed over the form, stating: "発注側担当者名に入力不可文字が入力されています。" (The order side manager name contains input characters that cannot be entered.) The dialog has an "OK" button.

Form ID: urn:schemas-microsoft-com:office:infopath:BD-0830Ver2011A-Rev01:http---www-jeita-or-jp-schemas-BD-0830-Ver2011-Rev01

X属性の項目に、半角英数文字以外を入力して[保存][保存(CII形式)]を実行するとエラーにします。

3-3 XMLメッセージ作成支援ツール

6) 入力内容のチェック機能の付加(2バイト属性チェック)

保存

保存(CII形式)

ボタン押下時のチェック処理で属性Kの項目に対して

「半角文字不可」をチェックします。

フォーム1 - Microsoft Office InfoPath

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) 表(A) ヘルプ(H)

インク入力の開始

発注元企業名 X(20)

発注元企業名(漢字) MONODUKURI株式会社 K(40)

発注元部門名 X(20)

発注元部門名(漢字)

発注元担当

発注元担当(漢字)

発注元担当役割名称 X(40)

発注元担当役割名称(漢字) K(80)

発注元担当 e-mailアドレス kazuo.saito@jp.monodukuri.co.jp X(60)

発注者品番 ABC0123DE-X X(25)

フォーム ID: urn:schemas-microsoft-com:office:infopath:BD-0830Ver2011A-Rev01http---www-jeita-or-jp-schemas-BD-0830-Ver2011-Rev01

K属性の項目に、2バイト文字以外を入力して[保存][保存(CII形式)]を実行するとエラーにします。

発注元企業名(漢字)に入力不可文字が入力されています。

OK

3-3 XMLメッセージ作成支援ツール

7) コード項目(ENUM値)プルダウン機能

ECALGA標準にて、規定されたコード入力するものについては、予め選択肢のプルダウン形式で入力できます。

フォーム1 - Microsoft Office InfoPath

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) 表(A) ヘルプ(H) 質問を入力してください

MS UI Gothic 10 B I U

技術情報依頼・通知番号 1 X(64)

技術情報区分

その他
部品情報提供
技術見積
サンプル要求
納入仕様書交換
購入仕様書交換
廃止品情報交換
環境情報交換
CADデータ提供
シミュレーションデータ提供
その他

依頼・通知区分

発注側担当者名 山田 太郎 K(100)

発注側担当者名(漢字) Purchase X(40)

発注側担当者役割名称 購買担当 K(80)

発注側担当者 e-mailアドレス tarou.yamada@jp.monodukuri.co.jp X(60)

受注側担当者名 SUZUKI ICHIRO X(50)

フォーム ID: urn:schemas-microsoft-com:office:infopath:BD-0830Ver2011A-Rev01http---www-jeita-or-jp-schemas-BD-0830-Ver2011-Rev01

ECALGA標準に準拠した選択肢で入力

3-4 XML／CII変換ツール

1) 機能概要

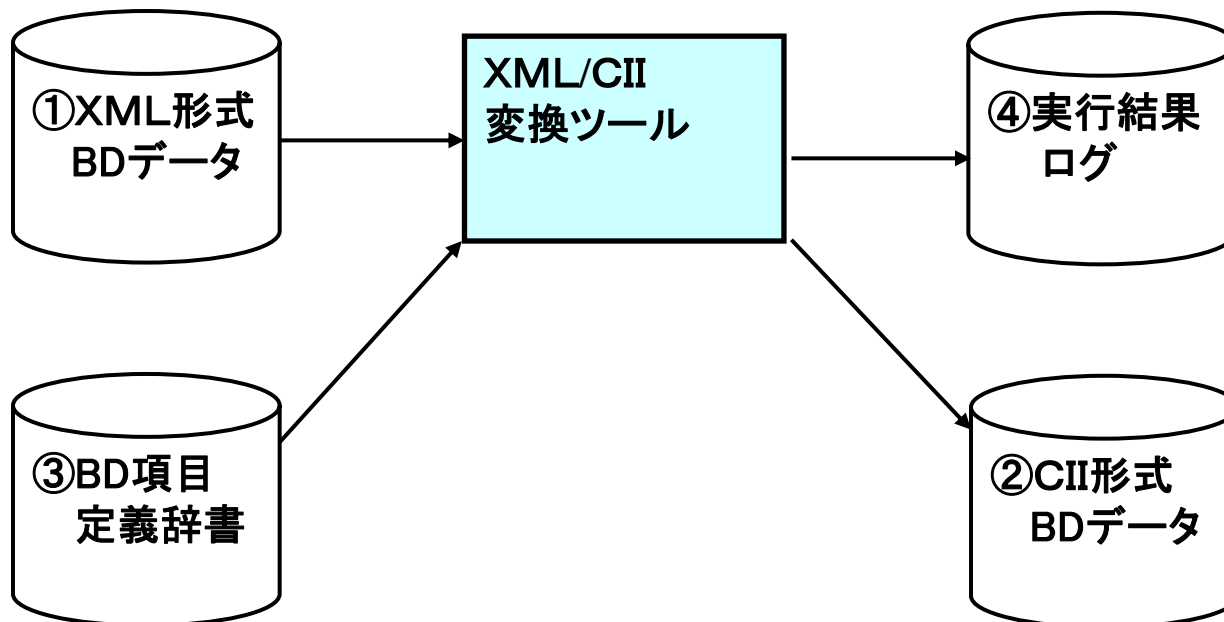
- ・INFOPATHで作成されたXML形式のメッセージをCII形式のメッセージに変換し、JEITA共通クライアントで送信する。
- ・JEITA共通クライアントで受信されたCII形式のメッセージをXML形式のメッセージに変換し、INFOPATHへ連携する。

2) 主な機能追加

- (1) ドキュメントは、「技術情報依頼・通知情報」と「汎用技術情報回答情報」とする
- (2) 単一種複数レコード処理に対応
- (3) 分割モード/通常モードに対応
- (4) データレコード部共通部の削除に対応
- (5) ログ出力機能を強化

3-4 XML/CII変換ツール

3) 動作概要



①XML形式BD : XML形式のテキストファイル

②CII形式BD : CII形式のバイナリファイル

③BD項目定義辞書

クラスと項目の全リストを定義(技術情報名称など)しており、XML⇔CII間、相互変換のためにトランスレータが引用する。

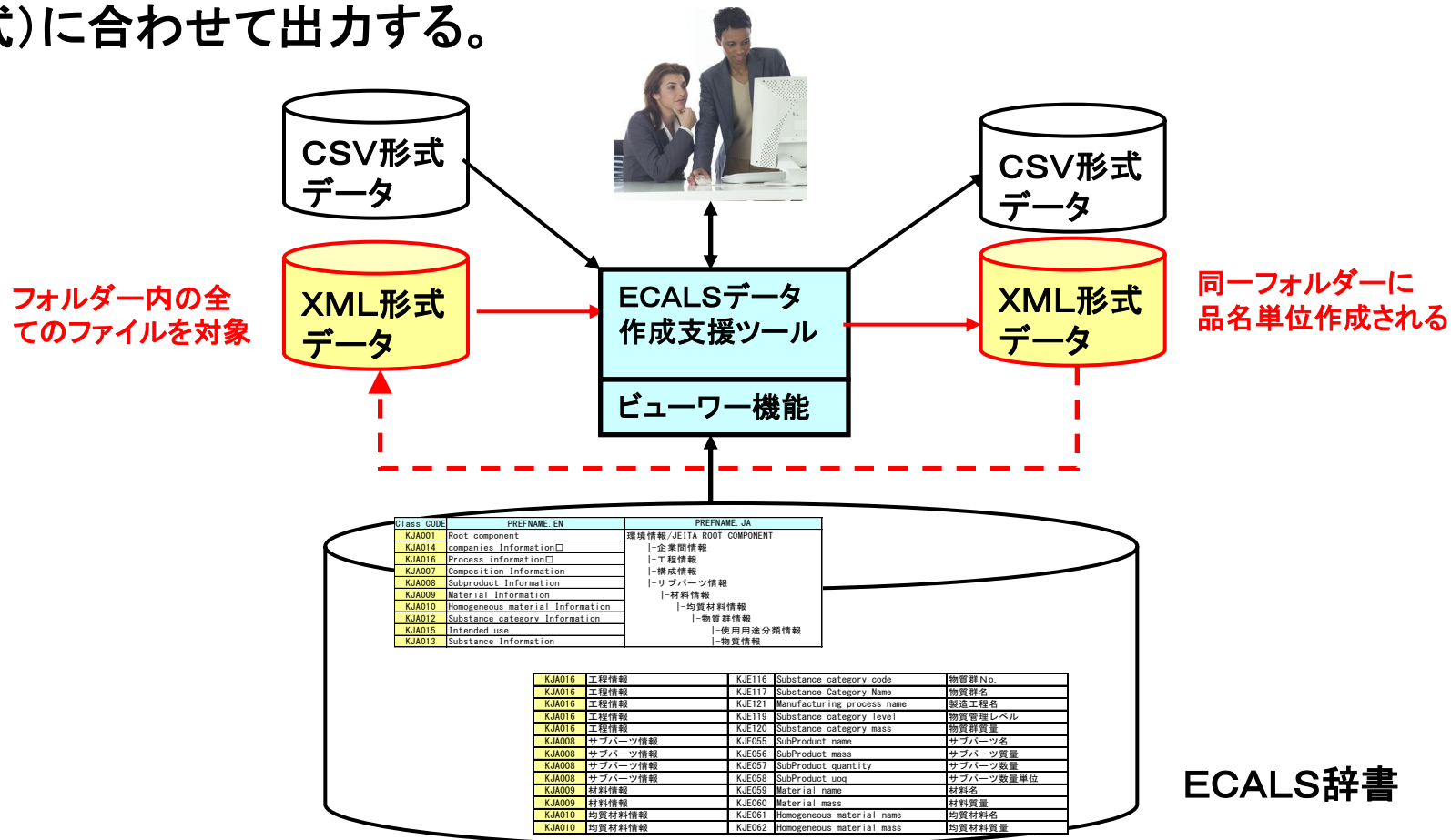
④実行結果ログ

トランスレータの実行結果として、正常終了／エラー終了／エラーメッセージ情報、入出力結果件数、ファイルサイズなどが記録される。

3-5 ECALSデータ作成支援ツール

1) 機能概要

ECALSテンプレートを基に、分類コードに対応したプロパティ項目をEXCELに展開し簡便なデータ入力が可能で、CSV形式とXML形式の既存のデータからインポートすることも可能で、利用側から要求された形式(CSV形式・XML形式)に合わせて出力する。



3-5 ECALSデータ作成支援ツール

2) 起動時の画面

ECALSデータ作成支援ツール (Ver. 2.00)

本ツールは、ECALSの部品分類(クラス)毎にプロパティ一覧を表示、およびデータ入力に使用するテンプレートを作成するものです。
任意のバージョンのECALS辞書ファイルを読み込むことにより、そのバージョンにおけるプロパティ一覧を確認し、テンプレートを作成することが出来ます。
(作成したテンプレートの黄色セルは記述属性が「必須」の項目です。)

辞書バージョン: **11.1**

1. ECALS辞書読み込

2. クラス表示

初期設定で辞書Ver.11.1がセットされています。別Ver.の辞書を使用する場合は読み込みから始めて下さい。

言語切り替え **日本語**
※指定された言語で辞書内容を確認します。

XML用	VENDOR CODE	1234567890
	URL (http://xxxx)	http://ec.jeita.or.jp/jp/
	VENDOR NAME	JEITA

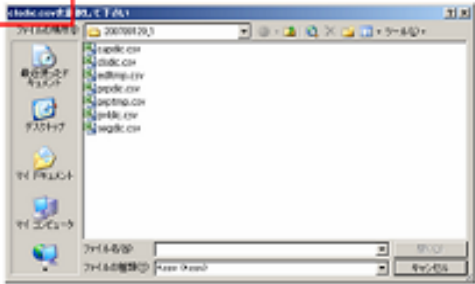
XMLの文字コード **UTF-8**

ご利用方法

- ECALS辞書を読み込む。
 - ECALS辞書ファイルを用意します。
JEITA ECセンターのサイト(<http://ec.jeita.or.jp/>)の「標準規格」>「ECALS標準」>「ECALS辞書ダウンロード」からダウンロードすることが出来ます。
ECALS利用者登録されている方は「ECALS利用者サイト」からも辞書のダウンロードが出来ます。
必要なファイルは「clasic.csv」、「prpic.csv」、「prtrp.csv」、「pvdic.csv」の4つです。ファイルが違っても動作しませんのでご注意ください。
1-2 辞書のバージョンを黄色枠に入力(例:11.1、12.1等)。「1. ECALS辞書読み込」ボタンをクリックします。
1-3 ファイル選択画面が表示されるので、ECALS辞書のクラスファイル(clasic.csv)を選択します。
その他の辞書ファイル(「prpic.csv」、「prtrp.csv」、「pvdic.csv」)は、clasic.csvファイルと同じフォルダに置いてください。
なお、他のCSVファイルがフォルダ内に有っても、自動でファイル名を確認して必要なCSVファイルを読み込みます。
1-4 読み込みには数分かりますので、しばらくお待ちください。
- 部品分類(クラス)に関するプロパティを表示する。
 - (必要に応じて)表示する言語を選択します。
 - 「2. クラス表示」ボタンを押下し、クラスツリーを表示します。
 - クラスツリーから、プロパティを表示したい最下層クラスを指定します。
 - シート「Summary」に、指定した最下層クラスのプロパティの概要が表示されます。
 - シート「Detail」に、指定した最下層クラスのプロパティの詳細が表示されます。
なお、DATA TYPEが「ENUM」(選択数項目)のセルをクリックすると、そのプロパティ値が表示されます。
 - シート「Selection」では、指定した最下層クラスのプロパティがDATA TYPE「ENUM」の選択数項目の内容が全項目表示されます。
- テンプレートを作成する(上記、表示されたプロパティを元に作成します)
 - (必要に応じて)表示する言語を選択します。
 - 「2. クラス表示」ボタンを押下し、クラスツリーを表示します。
 - クラスツリーから、プロパティを表示したい最下層クラスを指定します。
 - シート「Summary」に、指定した最下層クラスのプロパティの概要が表示されたら、クラスツリーフォーム左下の「テンプレート出力」ボタンを押します。
 - 本ツールと同じフォルダ内に、指定した最下層クラスのテンプレートが作成されます。 ファイル名:クラスコード+言語区分(Jpn)+クラス名称+辞書バージョン
(作成したテンプレートの黄色セルは記述属性が「必須」の項目です。)

免責事項

JEITA ECセンターは、本ソフトウェアが利用者にかかる損害、障害を発生したとしても、一切の責任を負いません。
また、本ソフトウェアに万が一にも不具合が発生しても、JEITA ECセンターはソフトウェアに関する保証の義務を負うものではありません。

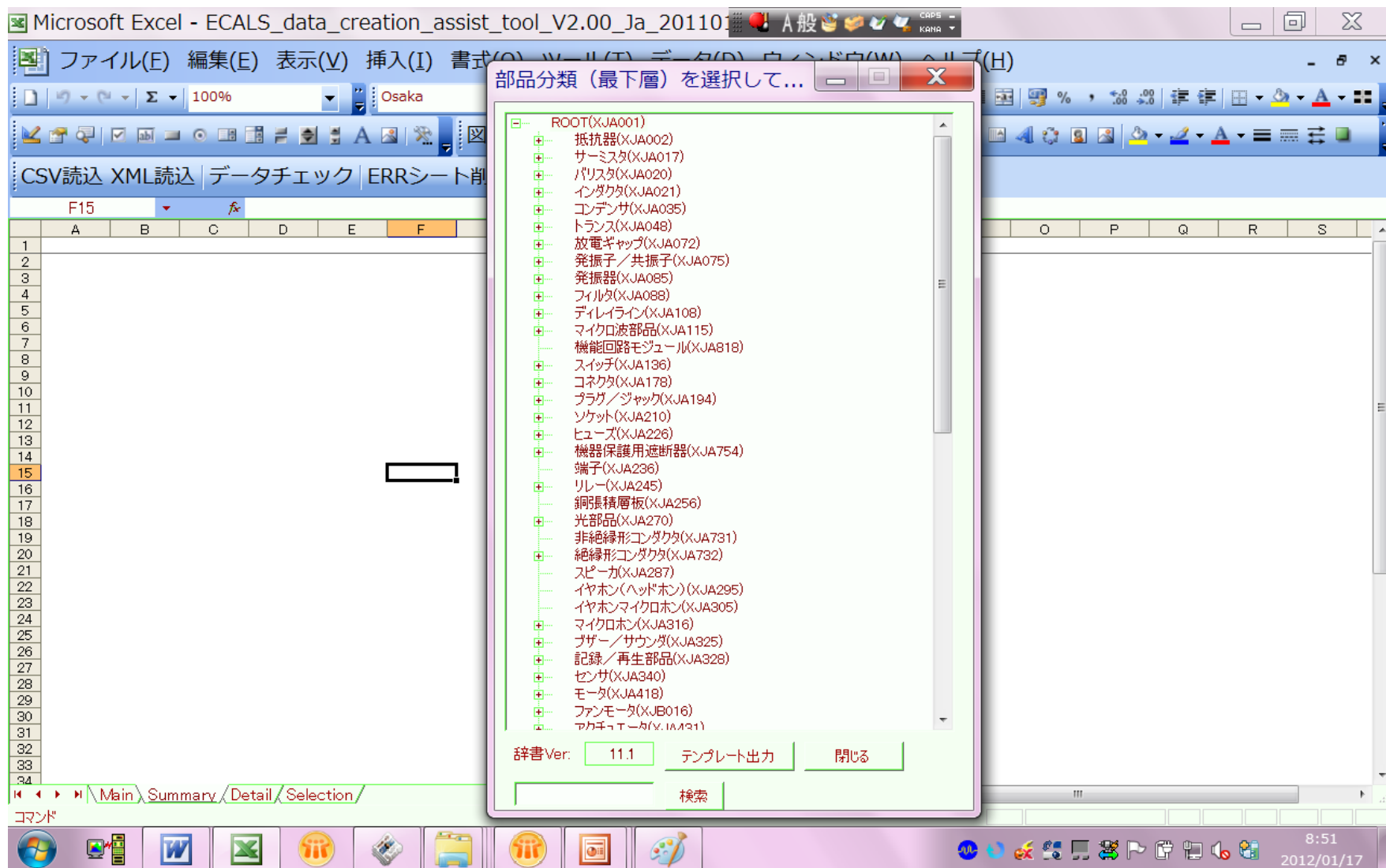




Copyright © 2010 Japan Electronics and Information Technology Industries Association, EC Center All Rights Reserved.

3-5 ECALSデータ作成支援ツール

3) ビューワー機能による、クラス選択画面



3-5 ECALSデータ作成支援ツール

4) データ入力EXCEL画面

[illegible]

3-6 ツール動作環境

動作環境

【OS】

Microsoft WindowsXP (SP3)

Windows7

【アプリケーション】

Office2007 Infopath2007

. NET .netFramework3.5

【動作推奨マシンスペック】

CPU : 1.0 [GHz]以上

メモリ : 1[GB]以上

一 目 次

4. 環境情報交換の支援ツール

4-1 AIS仕様 Ver.4の主な変更点

4-1 AIS仕様Ver.4の主な変更点

1) JAMP AIS仕様 Ver.4.00で対応する項目

JAMP AIS仕様 Ver.4.00で追加、または名称が変更された項目

Ver.3. 項目名	Ver.4.00 項目名	備考
会社名	会社名(英字表記)	英数字に限定
同上	会社名(母国語表記)	追加
発行者型番	発行者型番(英語表記)	英数字に限定
同上	発行者型番(母国語表記)	追加
材質用途	材質用途	数字に限定
	材質備考	追加
適用除外等	適用除外	RoHS、ELV指令について表示記号をIDに置換する

4-1 AIS仕様Ver.4の主な変更点

2) 材質用途の変換

JAMP AIS仕様 Ver.4.00では、〈材質用途〉を数値で伝達する。
JAMP AIS材質分類リストにて、材質用途に表示する値と伝達すべき値の対応を確認できる。

AIS仕様 Ver.3.1 材質用途の値	AIS仕様 Ver.4.00	
	材質用途に表示する値	XMLの値
1. 母材	1. 母材	1
1. base material	1. base material	1
2. 被覆	2. 被覆	2
2. Clad	2. Clad	2

4-1 AIS仕様Ver.4の主な変更点

3) 適用除外等の変換

JAMP AIS仕様 Ver.4.00では、RoHS指令とELV指令の〈適用除外〉欄の値を、ID(数値)で伝達する。

JAMP AIS仕様 Ver.3.1の《報告物質該当法令等》〈適用除外等〉に記述された値が、JAMP AIS物質用途リストの「表示記号」と一致する場合は、対応する「ID」をAIS仕様 Ver.4.00で伝達する値とする。
一致しない場合は、空(運用上、認められていない)に変換する。

JAMP AIS仕様 Ver.3.1	JAMP AIS仕様 Ver.4.00	
適用除外等の値	ID(伝達すべき値)	XMLの適用除外の表現
1	1	0010
6b	6b	0018

4-1 AIS仕様Ver.4の主な変更点

3) 適用除外等のリストからの変換例

(EU02)除外リスト(ELV)

☒ 対象外

☐ 閾値以下

☐ 法令対象製品分野外

ID	EU No.	Display	和文
0001	All	No exem	適用除外なし
0002	All	Below th	閾値以下
0010	2010/115/EU	1	重量で0.35wt%までの鉛を含む機械加工用のスチール及び亜鉛メッキ鋼
0011	2010/115/EU	2(a)	重量で2wt%までの鉛を含む機械加工用のアルミ材。2005年7月1日以前に市
0012	2010/115/EU	2(b)	重量で1.5wt%までの鉛を含む機械加工用のアルミ材。2008年7月1日以前に
0013	2010/115/EU	2(c)	重量で0.4wt%までの鉛を含む機械加工用のアルミ材
0014	2010/115/EU	3	重量で4wt%までの鉛を含む銅合金

原文

No exemption

参考訳

適用除外なし

開始日

2010/02/23

☒ 水銀

☒ 六価クローム

☒ カドニウム

期限

☒ 鉛

☒ 車両本体

☒ 保守部品

選択して閉じる

閉じる

4-1 AIS仕様Ver.4の主な変更点

4) 物質報告区分を「報告する」に固定化

- ・ GADSL を対象とすること
- ・ JIG を対象とすること

5) 小数点以下切り上げ

少数点以下丸めは報告用書込み直前で最大桁数に丸める。
丸め項目と順番は以下とする。丸め後材質集計する。

- | | | |
|--------------|-------------|-----|
| ①《材質》 | :〈材質質量〉 | 切上げ |
| ②《報告物質》 | :〈含有率(wt%)〉 | 切上げ |
| ③《報告物質》 | :〈質量〉 | 切上げ |
| ④《成型品中の材質情報》 | :〈材質質量〉 | 切上げ |
| ⑤《部品》 | :〈員数〉 | 切上げ |
| ⑥《階層》 | :〈員数〉 | 切上げ |
| ⑦《成型品質量》 | :〈質量〉 | 切捨て |

4-1 AIS仕様Ver.4の主な変更点

6) 単純化AISの扱い

JAMP AIS仕様 Ver. 4.00は、原部品と複合化の2種類のみであるため、単純化AIS機能を廃止した。

7) その他

(a) 包含度 (KJA026) のXML出力廃止

(b) 質量単位の追加 (μg)

XMLデータの最低質量単位をmgから μg に変更する。

材質と物質のみとし製品はmgのままとする。

(c) 法令コードの対応

- ・ 選択した物質に法令コードが全てブランクの時は任意報告物質に1をセットする。

4-1 AIS仕様Ver.4の主な変更点

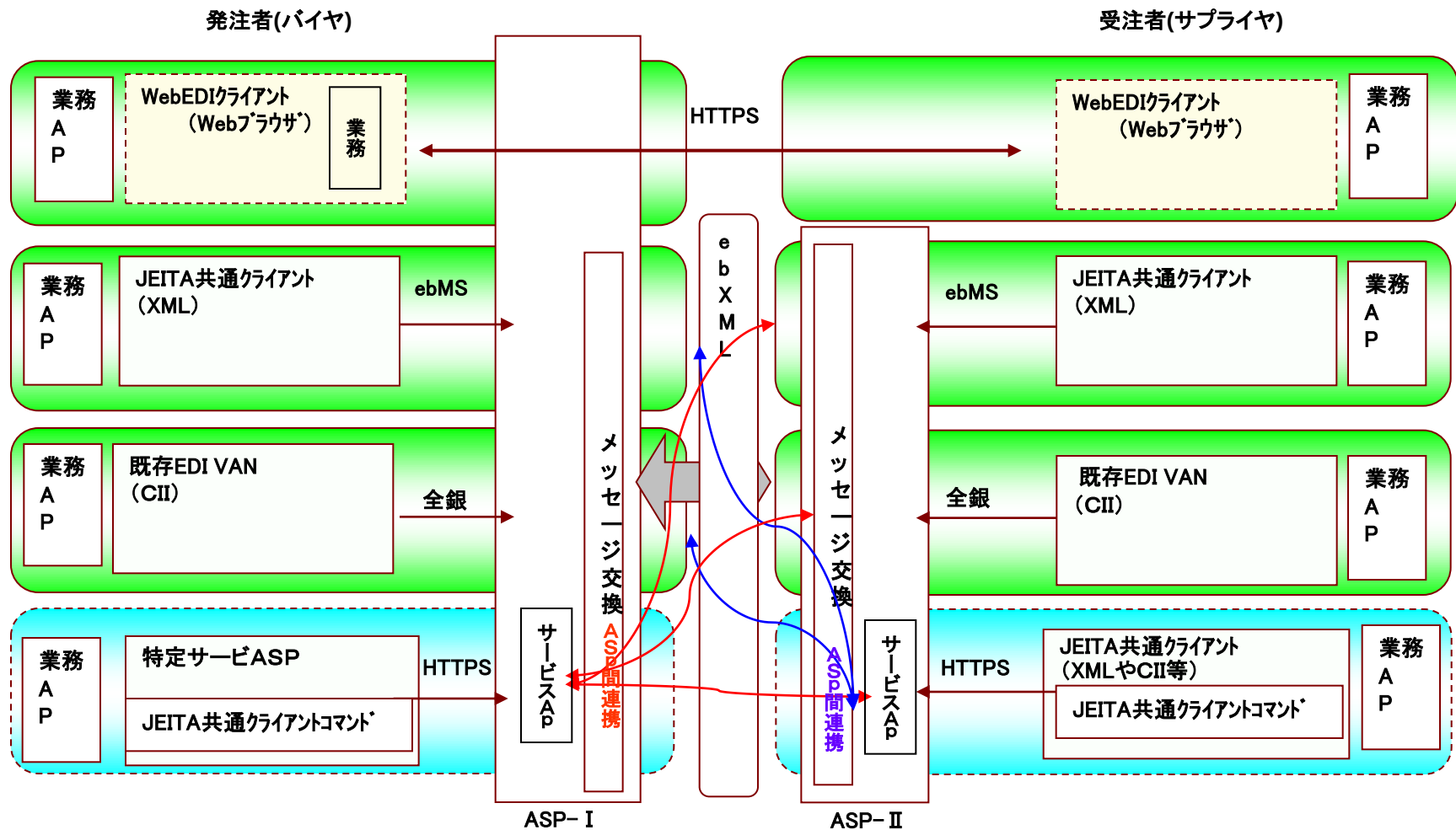
- (d) 一般商品名にスラッシュを含む時の処理
 - スラッシュは複合化した時の区切り文字の為、アンダーバーに変換する。
- (e) 集計機能の丸め処理
 - 中抜きの記事用の階層員数
 - 積上げの記事用の階層員数
 - 材質毎の質量の集計等
- (f) XMLデータのファイル名の変更
 - 例) AISx_XXXXX.xmlをAISx4_XXXXX.xml
- (g) 消失率100%の処理
 - 物質情報以下を全て削除

一 目 次

5. ECMが目指すBtoBデータ交換

5. ECMが目指すBtoBデータ交換

- ①ECALGAに準拠した、BDとECALSデータや環境情報を使用
- ②実装形式・通信手段の差はASPで吸収
- ③利用者間がどのASPでも、どの接続方法でも接続できる



一 目 次 一

6. 今後の課題

6. 今後の課題

- 標準規約の見直しと標準書の改定
- 技術情報交換の支援ツールの公開
 - XML／CII変換ツール
 - XMLメッセージ作成支援ツール
 - ECALSデータ作成支援ツール
 - AIS作成支援ツール
- AIS作成支援ツール実習書(英語版・中国語版)の公開
- 採用企業による新標準の実運用化
- 新規導入企業の開拓とASP関連系サービスのインフラ環境の確立
- AIS作成支援ツールの海外展開
(採用企業と連携して海外での普及活動を実施)

ECALGA